

NCAD Technical

Java Technology -1-

マスタ情報取り込み

業務システムにおけるマスタ情報はどのように取り込んでいますか？ CSV？ DB-LINK？ XML？ 上位システムの仕様にも左右されると思いますが、最も一般的な方法は CSV 形式でしょう。

しかしながら、CSV からの取り込みでキー情報に基づいたマッチングに対して追加・削除・変更を行った場合、処理時間とマシンへの負荷が高くなってしまいうケースも多いようです。

当社では、ワークテーブルと差分テーブルを使い差分抽出を SQL で実装することにより、高速かつ低コストなマスタ情報取り込みシステムをご提供しております。

活用事例

学校法人・A学院様 学生・職員マスタ情報取り込み

A 学院様では学生・教職員合わせて 2 万人を超えるマスタ情報を毎日バッチ処理にて更新を行っています。マスタテーブルのトリガーにより子テーブルへの反映を行っているため、洗い替え処理ではなく差分抽出による追加・変更・削除処理が必要となっています。

当社のノウハウである差分抽出処理を組み込み、高速なマスタ更新を可能にしています。

また、DB のメタ情報を参照し外部キーのチェックや各カラムの長さのチェックを行い「何行目の何カラム目」でエラーになっているかも即時に判明することでマスタ情報作成ミスへの対応もスムーズに行うことが可能になっております。

- ・ 高速な差分取り込み
- ・ DB のメタ情報による入力値チェック
- ・ 設定 XML による汎用化

高速なマスタ更新やエラー時のデータ判定の確実性など、大変喜んでいただきました。

